

令和4年度 第2回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

- 日時： 2022年11月7日(月) 15:00～16:15
- 出席者： 小田急電鉄株式会社
(敬称略) 学校法人工学院大学
一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
損害保険ジャパン株式会社
大成建設株式会社
東京ガス株式会社
独立行政法人都市再生機構
KDDI 株式会社
株式会社 JTOWER
ソフトバンク株式会社
東日本電信電話株式会社
楽天モバイル株式会社
新宿区
東京都 副知事 宮坂 学
東京都フェロー
東京都 デジタルサービス局
東京都 都市整備局
東京都 産業労働局
- 開催方法： オフライン・Web 併用
- 場所： TOKYO UPGRADE SQUARE
- 議題： 1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》
2. 協議会参加者の紹介
3. スケジュールの確認、第1回協議会の振返り
4. 【R4年度の重点ポイント①】広報・巻き込み活動・発信の強化
5. 【R4年度の重点ポイント②】プロジェクトの都市実装に向けた取組推進
6. 【R4年度の重点ポイント③】協議会の持続的な運営に向けた検討
7. 【その他】Well-Being アンケート先行調査結果の共有
8. 意見交換
9. 閉会の挨拶
- 資料： 1. 第2回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）

- 議事次第（P.1）
- 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）

- 先日、企業や大学発スタートアップが参加する「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」が発足した。コンソーシアムの取組を通じて西新宿の地で先端的なサービスが実装されていくとよい。
- 我々から一方的に先端サービスを発信していくのではなく、民間企業、大学、行政、地元の方が一緒に、ボトムアップ型で推進していけるとよい。技術ありきでは、ニーズがないところにサービスを導入してしまうこともあるため、常に街のニーズ・地元の方のニーズを見ながら、ニーズに対して新しい技術で解決するというスタイルで推進していきたい。
- また、東京都がスタートアップを応援しようという「Team Tokyo Innovation」の取組を開始しており、私もメンバーの一人として参加している。ここでは「東京全体を、新しい挑戦をする人を今よりも応援するような街にしよう」と議論している。ビジネスだけでなく、学問の世界、NPOの世界、アートの世界、スポーツの世界などの多様な分野の挑戦者が挑戦しやすく、挑戦者をみんなで応援する街になるために、「Team Tokyo Innovation」では制度の設計などに取り組んでいる。西新宿はビジネスの方が多いが、ビジネスにおいてはスタートアップという挑戦者が出てくる街となり、また、素晴らしい食やアート・エンタメの文化もあるため、多様な分野において挑戦者が評価され、挑戦できる街になればよい。
- 11月25日から27日に西新宿スマートシティの取組を生かしたイベントを開催する。こういったイベントも活用しながら、協議会でコミュニティを盛り上げ、より良いスマートシティにしたい。

2. 協議会参加者の紹介（事務局）

- 協議会参加者の紹介（P.3）

3. スケジュールの確認・第1回協議会の振返り（事務局）

- 西新宿スマートシティ協議会について（P.5）
- 西新宿スマートシティ協議会は、「デジタル技術を活用し、西新宿に関わる人のQOLを向上すること」を活動目的とし、4つのPT・TFにて活動を推進している。
- R4年度スケジュール（P.6）
- 今年度の協議会は全3回を予定しており、本日は第2回として、各PT・TFの進捗状況や今後の計画などを報告する。次回は年度末の開催を予定しており、1年間の取組成果や次年度に向けた方針の報告を実施する。
- 第1回協議会の振返り（R4年度協議会活動の重点ポイントと活動方針）（P.7）
- 第1回協議会の振返りとして、協議会設立3年目となる今年度の重点ポイント3点を確認する。1点目は「広報・巻き込み活動、発信の強化」として、協議会活動の認知度向上や西新宿生活者の声を協議会活動に反映させるべく取組を推進する。2点目は「プロジェクトの都市実装に向けた

取組推進」であり、新規プロジェクトの立ち上げやプロジェクト連携を通じて都市実装を目指す。3点目は「協議会の持続的な運営に向けた検討」であり、持続的な協議会活動の運営に向けた組織体制・ファイナンスの検討を行う。

4. 【R4年度協議会の重点ポイント①】 広報・巻き込み活動、発信の強化（事務局）

- 年度前半の振り返り（P.9）
- 重点ポイント①に関して、広報活動による協議会の認知度向上、巻き込み活動による西新宿生活者の意見収集・反映を目指す中、角川アスキー総合研究所によるYouTubeLive、西新宿スマートシティ通信の発行、意見交換会などの取組を実施した。
- 「西新宿スマートシティ通信」の発行（P.10）
- 今年度は、「ユーザーに対して分かりやすい発信」を行うべく、新たな取組として月刊「西新宿スマートシティ通信」を8月から発行している。写真やイラストを活用しつつ、中長期プロジェクトの紹介や生活者巻き込みイベントの案内などを発信している。実際に西新宿スマートシティ通信を見たことをきっかけとし、意見交換会に参加いただいた方もおり、協議会活動の認知度向上に寄与している。今後も毎月発行するので、社内での周知、ビル・掲示板への掲載などご協力いただきたい。
- HP・LINEの活用（P.11）
- 西新宿スマートシティ通信に加え、協議会活動の情報発信媒体として、「協議会公式HP」、「公式LINEアカウント」を継続して使用している。協議会の活動報告、イベントの案内など協議会関連情報を定期的に発信することで、認知度向上や協議会活動の理解促進を進めている。またLINEの友達数も年々増加しており、現在約870名の方にコミュニティメンバーとして登録いただいている。
- 意見交換会の実施状況（P.12）
- 今年度は、より積極的に西新宿生活者と交流すべく、コミュニティメンバーとの意見交換会をこれまでに2回開催した。ジョルテ、角川アスキー総合研究所の主催で、「西新宿生活者が学べる」ことを念頭に置いた企画を実施し、参加者から高い満足度を得た。
(株式会社ジョルテ)
- 通勤者・住民の方に幅広く集まっていただき、「知っていたら行っていたのに」というテーマで、情報収集について意見交換した。飲食店の比較サイトはたくさんあるが、あまり信用していないという意見もあった。また、西新宿は面白い人が多く住んでおり、仕事を依頼したいと思ったときにできる人はたくさんいるが出会えないという意見もあった。よりサービスを利用してもらうため、これらの課題の解決に取り組んでいく。
- 11月開催のイベント「FUN MORE TIME SHINJUKU」（P.13）
(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)
- 11月19日（土）から27日（日）の9日間で社会実験を行う。古くは2015年頃から行っている公共空間を使った回遊性と滞在性を測る実験であり、今回は都民広場に人工芝を敷き、普段はあまり人がいない都民広場に人が滞在するか検証し、同時に西新宿全体を滞在・回遊する空間

にできるか調査する予定である。加えて、イベント期間中、街中にデジタルサイネージを設置し、街案内をすることで、街に回遊性が生まれるのではないかと考えている。取組の後半3日間は東京都デジタルサービス局のイベントと連動し、どのような方が来場し、どのような回遊性と滞在性ができるのかという社会実験を行う。西新宿スマートシティ協議会と並行して進んでいる西新宿地区再整備方針検討委員会について、道路や公園などの公共空間が再整備に活用されることにより、人の活動が変化するのではないかと指針に書かれており、そのスタートとしての社会実験としたい。機会があれば成果等についてご報告させていただく。

(東京都 デジタルサービス局)

- 「FUN MORE TIME SHINJUKU」の一環として、スマートシティフェスタを開催する。期間は11月25日（金）から27日（日）で、新宿住友ビル三角広場にて行う。現在、空間の再編、すなわちハードの変化が推進されている一方、スマートシティ協議会やコンソーシアムでは、デジタルすなわちソフトでの変化も起きている。西新宿で実装を目指すスマートサービスを体験し、どのように街が変化するか知っていただく目的でスマートシティフェスタを開催する。協議会に参加している皆様にも、是非積極的にイベントへの来訪、広報をしていただき、地域が一体となって盛り上がるようにしたい。
- 課題と今後の取組事項（P.14）
- これまでの取組を踏まえた広報・巻き込み活動における課題は、大きく2点ある。1点目は、コミュニティメンバーとの交流機会である意見交換会の参加者が集まりづらいこと、2点目はコミュニティメンバーの拡大に向け、より多くの人に協議会活動を認知してもらう必要があることである。
- 今年度後半はこれらの課題を解消するため、参加者が気軽に参加できる意見交換会の企画により多くの西新宿生活者と交流する機会の創出、11月イベント時にプロジェクトのサービス体験機会の提供を通じた協議会活動の認知度向上などに取り組む。

5. 【R4年度の重点ポイント②】プロジェクトの都市実装に向けた取組推進（事務局）

- 年度前半の振り返り（P.16）
- プロジェクトの都市実装に向けた取組推進を目指す中、合同分科会の実施や新規プロジェクトの追加などの取組を実施した。
- 中長期の課題解決プロジェクト（2022年10月時点）（P.17～18）
- これまで推進してきた8つのプロジェクトに加え、今年8月に協議会構成員の皆様からメール承認いただいた「データ利活用プロジェクト」、「スマエネプロジェクト」を追加し、現在計10個のプロジェクトを推進中である。
- 合同分科会の開催（P.19）
- 8月に、プロジェクトの都市実装、プロジェクト間連携を検討する場として、プロジェクトリーダーが集まり合同分科会を開催した。各プロジェクトにおける顧客、提供価値など実装において重要となるポイントを、リーンキャンパスに則り発表いただくとともに、ワークショップを通じて、プロジェクト間で連携し新しい価値を提供できないか検討した。合同分科会で出た連携案をもとに、取組を開始している。
- 取組サマリ（P.20～26）

テーマ① 地域の魅力創出 (P.20)

(小田急電鉄株式会社)

- 現在、イベントの実施、XR の推進、中央公園などを活用した取組の 3 つの取組を実施している。実績としては、中央公園前広場の活用という形でイベントの実施、XR の体験並びにクリエイターが集ってイノベーションを起こす XR 施設「NEUU」という場の提供を行っている。
- 今後は、11 月 17 日 (木) から 24 日 (木) に XR 映画祭、12 月に「Candle Night」を実施する。
- 「Candle Night」では、西新宿 LOVEWalker やスマートシティカレンダーでの情報発信、並びにイベント中の連携を検討している。合わせて NTT 東日本の DOOR を活用したコミュニケーションも検討しており、合同分科会にて検討した連携の実現を目指す。

テーマ② 認知度向上・地域への参画促進 (P.21~22)

(東日本電信電話株式会社)

- 一昨年、昨年と、リアルなコミュニティを作り、西新宿を盛り上げようと取り組んできたが、長らく続くコロナの状況により、人と人、人と都市の接点が減少しているため、メタバースプラットフォーム「DOOR」を活用し、西新宿のコミュニティ活性化を図る。
- 11 月下旬に DOOR 内にバーチャル西新宿を立ち上げ、クリアソン新宿様、損保ジャパン様、工学院大学様などに 12 月にルームを立ち上げていただく予定である。
- 今年度は KPI を設定しない。
- 協議会 HP・LINE、西新宿スマートシティ通信と連携し、DOOR の周知を図る。協議会に参加している皆様にも気軽に参加していただき、メタバースとリアルの両方を掛け合わせて西新宿の認知度や地域参画などを向上していきたい。

(株式会社ゾルテ)

- デジタル技術が発展しているにもかかわらず、西新宿でどのようなイベントが実施されているかわからないという課題を受け、「ここに情報を掲載すれば、人が集まる」という情報発信の仕組みができればよいと考えており、統一的な情報発信の仕組みを西新宿で作る取組を行っている。
- 今年度の取組としては、意見交換会にて実際の生活者のリアルな課題を収集した。また、もともと西新宿のイベントを発信するサイト「西新宿カレンダー」を作成していたが、このサービスをアプリ化するため、アプリ開発を進推している。アプリには新しい情報が入るとプッシュ通知が届く機能が付く。
- KPI としては、アプリ利用者 5,000 人を目指している。また、情報発信をする連携施設を 100 か所程度としている。
- 今後の取組として、「Spotta」というアプリにて「スマートシティフェスタ」の情報発信、西新宿カレンダーにて「FUN MORE TIME SHINJUKU」の情報発信を行い、これらのイベントを通じて、新しいアプリを周知させる。また、網羅的に情報を集め「マチカレ」という新サービスを準備しており、年明けに向けて展開したい。最終的にはビジネスとして考えたいので、クーポンや広告の仕組みも検討する。

(株式会社角川アスキー総合研究所) ※代理発表：事務局

- 西新宿 LOVEWalker プロジェクトでは、西新宿 LOVEWalker を軸とし、Twitter や Youtube なども活用した情報発信に取り組んでいる。今年度前半は、西新宿の企業や生活者の方にも記事を作成いただき、ユーザー・ジェネレイテッド・メディアとして西新宿 LOVEWalker を発展させてきた。また、より多くの方に西新宿スマートシティ協議会の取り組みを理解いただくために、新たな試みとして Youtube 生放送の実施や、生活者との意見交換会を実施した。
- KPI としては、地域関連企業、団体様との連携による西新宿 LOVEWalker の記事執筆、また、Youtube 生放送の実施など、順調に進捗している。
- 今後の取組み予定に関しては、11 月イベントと連携したコンテンツの配信や、第二回 Youtube 生放送を計画している。また、来年度以降は、協議会の皆様にもご協力いただき、西新宿 LOVEWalker 主催での生活者巻き込みイベントも開催できればと考えている。

(株式会社レスターエレクトロニクス)

- 9月から民間の大手商業施設に対話型受付案内「CHELULU」を設置し、どのような問い合わせが行われているかデータ分析を実施している。性別など、ある属性の方が何に興味を持っているのかなどの情報を統計的にデータで収集できるか確認している。時間帯ごとに問い合わせが多い内容を知ることで、今までは提供できていなかった必要な情報に気づき、その場の環境を改善することにつながる。
- 対話型受付案内「CHELULU」を「スマートシティフェスタ」へ出展し、参画いただいている皆様「CHELULU」がどのようなサービスか知っていただき、アセットをお持ちの事業者様と連携を進めたい。

テーマ③ 移動環境の整備 (P.23)

(損害保険ジャパン株式会社)

- 各プロジェクトリーダーが取り組んでいるイベントや西新宿にある魅力的なスポットをつなぐモビリティを作り、整備する取組である。
- 「スマートシティフェスタ」において、一般の来場者に自動運転車に試乗いただくことを計画している。イベントの前には、関係者の皆様にも試乗いただく。
- KPIとして、乗車アンケートで高い満足度を出すこと、移動時間の短縮を目指している。有償チケットについては、購入する/しないというより、他のイベントとの組み合わせで購入していただく形を今後検討していきたい。
- 今後は、西新宿での実装としてふさわしい形、実装に向けての課題について、関係者の皆様と協議していきたい。

テーマ④ 新たなワークスタイルの確立 (P.24)

(株式会社KDDI総合研究所)

- ワークスペース、ジョブマッチングの大きく2つの取組を進めているが、今回はワークスペースにフォーカスしてご報告する。
- 今年度上期については、プロジェクト間連携についての議論とワークスペースの詳細設計を推進した。
- 今後、自己成長や価値観のアップデートという形で、生産性の高いワークスタイルを実現するため、内省（リフレクション）にフォーカスした空間の実証実験の取組を進める。
- プロジェクト間連携として、角川アスキー総合研究所と議論しており、記事などの情報発信を予定している。

テーマ⑤ エリア共通基盤の整備（P.25～26）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 今年度上半期は、実際にオープンスペースの活用を申請する場合の手続きを考え、必要な機能やデータを検討している。
- 下半期も実務で使用できることを目標に活動する。合同分科会でのプロジェクト間連携の議論もあり、例えば、新宿 WoW プロジェクトでイベントを行うスペースの調整や、CAMP プロジェクトでの設置場所の調整にエリア OS が利用できるようにするなどの横連携も推進しつつ、エリアへの実装を目指す。

（東京ガス株式会社）

- 建物のBEMSデータと連携した地域冷暖房プラントの需給最適制御の推進、電力需給ひっ迫状況改善への貢献、カーボンニュートラル化の3つの取組を推進している。
- KPIとしては、電力需給ひっ迫への対応として、今年度すでに約8,000kWの送電を実施済みである。ヒアリングに関しては、建物のBEMSデータと地域冷暖房プラントの連携をするために、各ビルがどのようなBEMSデータを保有しているかを中心としたアンケートを開始している。
- 今後は、各ビルにヒアリングを実施し、ヒアリングの結果を受けてモデルビルの選定を進める。

（株式会社JTOWER）

- 西新宿の地域企業、来街者をターゲットとして、スマートポールからの取得データを活用したユースケースを発掘すると共にサービス提供を推進し、スマートシティに必要なデータとサービスの在り方を検討している。
- 今年度はサービス提供者の誘致と実施内容の調整、PoCの実施を目指している。現在は、サービスの誘致を推進しており、3社ほどが決定し、手続を進めている。
- ユースケース創出数、PoC実施数、支払意向金額の確認をKPIとしている。支払意向金額については、現在は無償のサービスだが、将来的には有償化を目指しており、実際にどれほどの金額をいだけそうか確認を進めている。

■ 西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアムの発足（P.28～30）

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 9月16日にコンソーシアムが設立し、61者の方に入会いただいた。サービスを提供する民間企業、技術を持っている民間企業や大学に加え、地元企業と通信キャリア12社、課題をテクノロジーで解決してほしいというニーズを持った地元の方にも参加いただき、61者となっている。
- 地域会員と調整を始めながらサービス実装に向けてプロジェクトを開始している。また、大学発のスタートアップや研究室として、coton様、モーションリブ様、筑波大学岩田研究室様といった新しいプレイヤーの方に参画いただいている。コンソーシアムは、スマートシティ協議会と合わせて、西新宿に新しいサービスを実装させていく大きな役割を担っていくと考えている。
- 課題と今後の取組事項 (P.31)
- プロジェクトの都市実装に向けた取組推進における課題としては、各プロジェクトの実装・連携を推進する上での課題を事務局としても把握し、解消に向けて支援していく必要がある、ということである。今年度後半はこの課題を解消すべく、2024年度までの実装を目指し、行政との調整・打合せへの同行やコンソーシアムとの連携を通じて、事務局としてプロジェクトの課題解決をサポートする。

6. 【R4年度の重点ポイント③】協議会の持続的な運営に向けた検討 (事務局)

- 年度前半の振り返り (P.33)
- 協議会の持続的な運営に向けた検討を進めるべく、再整備方針案の作成、持続可能なエリアマネジメント組織のためのマネタイズスキームの調査・整理などの取組を実施した。
- 西新宿地区再整備方針案の検討状況 (P.34)
(東京都 デジタルサービス局)
- 「西新宿地区再整備方針」の検討は、都市整備局と新宿区が事務局として推進しており、昨年7月から検討を開始している。第5回の検討会の中で、再編に向けて「創る」・「繋げる」・「生み続ける」という3つの考え方が示された。「創る」は、超高層ビルの更新をきっかけに、まちに新たな機能・空間を創る考えである。「繋げる」は、道路空間と民間空間で行き来しにくいという課題に対し、まちの垣根を取り払い、ウォークアブルな空間で繋げる考えである。「生み続ける」は、街のマネジメントとして人々の挑戦、多様な活動を継続的に生み続け、西新宿地区をアップグレードしていこうという考えである。
- 協議会の体制・ファイナンスモデルの検討 (P. 36)
- 協議会の持続的な運営に向けた体制検討を進める中での課題について、重点ポイント①、②に関連し、次年度以降もコミュニティ活動を継続し、課題解決に向けた中長期プロジェクトを支援していくために、協議会の運営体制の検討を進めていく必要があること、また、再整備方針案で示されている実装イメージに沿って協議会の取組を進めていく必要があることがあげられる。今年度後半はこれらの課題を解消すべく、将来的な協議会の運営体制の検討や、空間マネジメント・移動交通を中心に再整備方針に沿った検討を推進する。なお、重点ポイント③に関しては、今後、環境改善委員会等関係者間で検討を進め、次回第3回協議会にて、将来的な運営体制案および実行スケジュール案を提示する予定である。

- なお、将来的な運営体制として、現時点での案ではあるが、協議会は合意形成の場とし、サービス実装はコンソーシアムを中心に推進していければと考えている。また、協議会の持続的な運営に必要な資金確保の観点から、エリアマネジメント組織としてマネタイズができる方法、体制を確立していければと考えている。

7. 【その他】Well-Beingアンケート先行調査結果の共有（事務局）

- Well-Beingアンケート先行調査結果の共有（P.37～40）
- 協議会ではこれまで、SCI の作成した Well-Being 指標の活用を視野に入れていた。9 月に Well-Being アンケート先行調査結果という名称にて公表されたアンケート結果は各自治体の回答者数が限定的であるため、西新宿の現状把握のための参考情報として扱うこととし、協議会では今年度も独自のアンケートを継続実施する方針とする。また、今後も SCI 調査結果は継続して注視し、結果が更新された場合は、改めて分析のうえ、傾向把握を行う。

8. 意見交換（事務局）

- 意見交換（P.41～43）

（発言者A）

- 西新宿では、エリアマネジメント団体に多様な企業が参加しているため、いろいろな視点のサービスが創出されている点が良い。
- サービス利用者の共通点が見えてくるとよい。プロジェクト間でリードユーザーが共有され、ユーザー目線での気づきをプロジェクトに反映できるとよいのではないかと。西新宿における企業ユーザー、個人ユーザーを考えたうえでサービス連携を進めることができるとよい。加えて、各取組・サービスに対してリードユーザーからフィードバックを受けるような仕組みができると、サービスのブラッシュアップが進む。
- 前橋では、前橋市が51%、残りを地域企業が出資して「めぶくグラウンド」という会社を設立した。デジタルIBをサービス提供者に提供し、IB利用料を企業がめぶくグラウンドに支払うモデルとなっている。IBを使用したイベントが先週あったが、すでにモビリティで割引が受けられるサービスなど、めぶくIDを登録すると受けられる市民向けのサービスが4つほど打ち出されていた。IBに登録するとモビリティサービスが便利になるといったデータの利活用、利用料徴収のモデルをつくることで、組織を持続させるためのベースとなる。

（発言者B）

- 西新宿ではリードユーザーが明確にできていないと感じる。コンテンツはそろってきているため、リードユーザーを描きながら進めていくと効果的なのではないか。

（発言者C）

- 現時点では各プロジェクトが異なるリードユーザーを想定していると思われるため、全体でリードユーザーを議論してもよいのではないかと。その際、“自分たちがリードユーザーになる”という意識で議論す

ることで、西新宿にとって価値のあるサービスが検討できるのではないか。

(発言者D)

- コンソーシアムでは、学生向けにデジタルまちづくり講座を行っており、アイデアコンテストを開催している。コンテストでは、学んだデジタルサービスの作り方を生かした、西新宿に対する提案が多く出ているが、学生らしい斬新で面白いアイデアがたくさんある。実現すれば西新宿が魅力的になるもの、文化的に豊かになるものがたくさんあり、協議会活動の参考になる。

(発言者E)

- 冬に2回ほど朝の時間に集まって西新宿エリアの大掃除をするイベントがあるが、1,000人ほどが参加しており、街に対する心意気がある人がたくさんいることがわかる。こうした心意気がある人を協議会活動に巻き込み、継続的に関わっていただくことが重要である。

(発言者F)

- スマートシティ化の推進においてデジタル技術は重要であるものの、企業や個人が積極的に参加していただくことではじめて意味のある取組となる。大掃除の事例のように多くの企業・個人が参加するような取組を広げていきたい。
- 隈研吾氏が「これからはデジタルのことを考えて建物を造る必要がある」と述べていた。デジタルは大事だが、都民広場が緑になるなど目に見えるものの変化があって初めて変化を感じ、人の行動も変わる。

(発言者G)

- 学生が西新宿の街に提案をしてくれることは今までなかった。学生のアイデアを形にすることができれば、学生は提案したものが実現する西新宿を好きになるため、そのような仕組みができるとうい。何か一つでも実現して、西新宿のファンを作りたい。

9. 閉会の挨拶 (事務局)

■ 閉会の挨拶 (P.45)

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 変化が起きるときに人は興味を抱く。変化が起きているこのチャンスをとらえ、取組に携わることは楽しいことだと多くの方に知ってもらうため、わかりやすく伝えることが重要である。どのように取組を継続していくかも重要であるので、活動をどのような形にしていけるかを次回の協議会で議論し次年度以降につなげていきたい。
- 11月末の社会実験にも、参加いただき、意見をいただきたい。

以上